

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0272000332
法人名	有限会社 大三
事業所名	グループホーム よもぎた
所在地	青森県東津軽郡蓬田村大字阿弥陀川字汐干116-1 (電話)0174-31-3151
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年7月16日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年10月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.85人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 19,500 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(平成21年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	外ヶ浜中央病院 グリーン歯科クリニック・齋藤内科小児科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な田園風景で、主要道路の側に位置し、建物自体が地域に溶け込んでいる。
地域密着型サービスの役割を意識した、事業所独自の理念を作成しており、ホーム内に貼り出すほか、朝夕の申し送り時等に確認するなど、全職員に周知し、共有している。また、理念を日々のサービス提供場面に反映させるよう取り組んでいる。
地域住民が気軽に立ち寄り、町内行事を通じてコミュニケーションを取ったり、ホームの行事に参加してもらうなど、理念に沿った活動を行っている。また、生活支援ハウスも隣接しており、入居者のニーズに幅広く対応している。
利用者のニーズに応じて、美容院への送迎や買い物、通院等の外出支援など、利用者の意向に出来るだけ対応できるよう柔軟に行っている。また、アセスメントより、利用者の生活歴や希望、力量等を把握し、散歩や日向ぼっこ、塗り絵や書道、ちぎり絵など、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促すように働きかけている。
看取りの指針を作成し、ホームの対応を明確にしている。また、早い段階から利用者、家族、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。
調度品等は家庭的な雰囲気のあるものを備えているほか、職員が立てる物音、テレビや音楽等の音量、日射し等は適切に保たれている。ホーム内にいても、季節を感じるができる工夫を行っている。

【特に改善が求められる点】

自己評価を全職員で取り組み、運営推進会議に報告し、今後の活動に活かせるように話し合いを行うことに期待したい。
全職員が個々の経験や力量に合わせ、段階的に研修に参加出来るよう年間研修計画を作成することに期待したい。
同業者と交流や連携を図り、サービスの向上や職員の育成に繋げることに期待したい。
やむを得ず身体拘束や施錠を行う場合に備え、家族等への説明や同意を得る体制を整えることに期待したい。身体拘束を行う際は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えることに期待したい。また、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等の取り決めを作成し、勉強会等を通じて全職員への周知徹底を行うことに期待したい。
災害発生時や無断外出時に備え、住民や警察署、消防署等からの理解・協力が得られるよう働きかけることに期待したい。
献立や栄養摂取状況について、栄養士等専門家から助言等を得ることに期待したい。
感染症に関するマニュアルについて必要に応じて見直しを行い、職員に学習の機会を設けるほか、感染症に関する情報を利用者や家族等に周知することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の評価結果をスタッフミーティングやユニットごとの話し合いを通じて、改善課題などを話し合い、改善に向けて調整している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価のねらいや活用方法を理解しており、評価結果を回覧するなど、全職員に周知する取り組みを行っている。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>2ヶ月に1回開催しており、役場職員や家族等が出席し、会議の意義や役割を説明している。</p> <p>また、外部評価結果の報告や情報交換を行い、今後に繋ぐ話し合いをしているほか、外部評価結果を基にした改善策等を報告している。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	<p>利用者の暮らしぶり等について、随時報告しているほか、健康管理や受診状況、職員の異動等について、面会時等に報告している。</p> <p>玄関に苦情受付箱と用紙を設置するなど、家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りに努めている。また、事業所内・外の苦情受付窓口を明示及び掲示して、継続的に家族等に周知しているほか、事業所に寄せられた家族等の意見や苦情等は日常の支援に反映するように取り組んでいる。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>年1回開催しているバーベキュー大会に地域の方を招待したり、村民祭や社会福祉大会等の村内行事に積極的に参加するなどして、積極的に交流を深める働きかけを行っている。また、運営推進会議への参加を促すなどし、ホームの理解を得ている。</p> <p>さらに、小学校の社会見学等を受け入れ、事業所のもつ専門性を地域に還元している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域密着型サービスの役割を意識して、管理者や職員間で話し合った事業所独自の理念を作成しており、ホーム内に理念を貼りだすほか、朝夕の申し送り時等に確認するなど、全職員に周知し、共有している。また、理念を日々のサービス提供場面に反映させるよう取り組んでいる。</p> <p>管理者と職員は、定期的に研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度の概要について概ね理解している。また、パンフレット等を用いて、利用者や家族等に事業についての情報提供を行う体制が整っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを利用できるように、相談受付の段階から利用者本位の支援を行っている。また、利用者や家族等の意向に沿ったサービス開始になるよう、十分な話し合いを行い調整している。</p> <p>職員は利用者の話をよく聞き、喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。また、除草作業など、利用者のできる力を発揮してもらい、利用者と職員が共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>職員は、各ユニットごとに利用者の思いや希望、意向を十分聞き取り、把握するよう努めている。また、十分に意向を把握できない利用者については、全職員でコミュニケーション方法を工夫し、利用者の視点に立った意向把握に努めている。必要に応じて、家族や関係者等から情報収集を行っている。</p> <p>看取りの指針を作成し、ホームの対応を明確にしている。また、早い段階から利用者、家族、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は日常的に利用者の言動を否定したり拒否していないほか、利用者側に立って話をするように心掛けている。また、利用者の意向を尊重した呼び掛けを行っている。</p> <p>利用者の希望を取り入れ、できるだけ日常的に外に出る機会を作っている。また、隣接する市町村へ出掛ける等、利用者の希望を取り入れている。移動距離や体調に配慮し、利用者の状態に合わせた支援を行っている。</p> <p>使い慣れた物を持ち込んでもらうよう、家族に積極的に働きかけている。また、職員と利用者が一緒に一人ひとりに合った居室作りを行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を意識して、管理者や職員間で話し合った事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内に理念を貼りだしたり、管理者は朝夕の申し送り時等に確認するなど、全職員に周知し、共有化している。また、理念を日々のサービス提供場面に反映させるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	年1回開催しているバーベキュー大会に地域の方を招待したり、村民祭や社会福祉大会等の村内行事に積極的に参加するなどして、積極的に交流を深める働きかけを行っている。また、運営推進会議への参加を促すなどし、ホームの理解を得ている。さらに、小学校の社会見学等を受け入れ、事業所のもつ専門性を地域に還元している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価のねらいや活用方法を理解しており、評価結果を回覧するなど、全職員に周知する取り組みを行っている。前回の評価結果を基に、改善策を話し合い、出来ることから取り組んでいるが、自己評価を作成する際に、全職員が関わるまでには至っていない。	○	自己評価を作成する際に、全職員で取り組むことに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、役場職員や家族等が出席し、会議の意義や役割を説明している。また、外部評価結果の報告や情報交換を行い、今後に繋ぐ話し合いをしているほか、外部評価結果を基にした改善策等を報告しているが、自己評価の結果を説明するまでには至っていない。	○	自己評価の結果を報告し、今後の活動に活かせるように話し合いを行うことに期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村にホームのパンフレットを配布するほか、外部評価結果を報告している。また、利用者の入所に関することなど、課題を解決するための相談等を行い、コミュニケーションを図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、定期的に研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度の概要について概ね理解している。また、パンフレット等を用いて、利用者や家族等に事業についての情報提供を行う体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。また、管理者は、職員の日常の支援の場面を観察するなど、虐待を防ぐよう努めているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等についての取り組みを作成するまでには至っていない。	○	虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等の取り決めを作成し、勉強会等を通じて全職員への周知徹底を行うことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に事業所のケアの方針や取り組み等について説明し、疑問や意見を引き出すように配慮している。契約改訂時や退居時には、十分に説明を行い、同意を得るようにしているほか、退居時は、利用者や家族等が不安にならないよう、退居先の情報提供を行う等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶり等について、随時報告しているほか、健康管理や受診状況、職員の異動等について、面会時等に報告している。金銭管理状況について毎月定期的に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱と用紙を設置するなど、家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りに努めている。また、事業所内・外の苦情受付窓口を明示及び掲示して、継続的に家族等に周知しているほか、事業所に寄せられた家族等の意見や苦情等は日常の支援に反映するように取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者、職員は担当職員の交代による利用者への影響を理解しており、配置換えや新規職員採用の際は、利用者十分に説明し、1週間程度の期間を設けて引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では管理者が中心になって助言しているほか、外部に相談するスーパーバイザーを確保している。研修受講後は報告書を作成しているほか、伝達研修を行い、周知を図っている。運営者は、職員が交互に、力量や経験に応じた研修を平均的に受講出来るよう配慮しているが、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	全職員が個々の経験や力量に合わせ、段階的に研修に参加出来るよう年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、同業者との交流の必要性を認識しているが、交流や連携の場を設け、事業所のサービスの向上や職員の育成に繋げるまでには至っていない。	○	同業者との交流や連携の場を設け、事業所のサービスの向上や職員の育成に繋げることに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるように、相談受付の段階から利用者本位の支援を行っている。また、利用者や家族等の意向に沿ったサービス開始になるよう、十分な話し合いを行い調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の話をよく聞き、喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。また、除草作業など、利用者のできる力を発揮してもらい、利用者職員が共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、各ユニットごとに利用者の思いや希望、意向を十分聞き取り、把握するよう努めている。また、十分に意向を把握できない利用者については全職員でコミュニケーション方法を工夫し、利用者の視点に立った意向把握に努めている。必要に応じて、家族や関係者等から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時に利用者の意見をよく聞くよう努めている。また、全職員の意見や気づきを基にユニット毎に話し合っ作成している。必要に応じて家族や関係者等の意見や気づきを反映させており、個別に利用者本位の介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、期間終了後はケース毎に見直しを行っている。実施期間内でも身体状況の変化や利用者・家族等の希望の変化時には随時の見直しを行っている。見直し時は、職員だけでなく、利用者や家族等の意見や気づきを収集しているほか、利用者の状態や希望等に変化がないか、観察や把握するように心掛けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のニーズに応じて、美容院への送迎や買い物、通院等の外出支援など、利用者の意向に出来るだけ対応できるよう柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入所前の受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を継続して受診できるよう支援している。協力病院では、体調変化や心配ごとのある時等には、気軽に相談することができるほか、家族等も含めた情報交換を行っている。受診結果は、利用者や家族等と共有するように努めている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し、ホームの対応を明確にしている。また、早い段階から利用者、家族、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常的に利用者の言動を否定したり拒否していないほか、利用者側に立って話をするように心掛けている。また、利用者の意向を尊重した呼び掛けを行っている。職員は、個人情報保護法について概ね理解しており、業務日誌や利用者に関する記録は利用者や訪問者の目の付かない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のペースを大事にし、利用者の言動を急かしていないほか、利用者の訴え優先に行っている。また、日頃、観察を十分に行い、利用者のペースやその日の希望、身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行うよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好み、苦手なもの等に配慮されている。また、利用者は調理の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。職員は利用者と一緒に食事を摂り、食事中は食べこぼし等へのサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣や好みを把握し、個々の入浴日や時間帯、入浴方法等の意向を取り入れている。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面に配慮した支援を行っている。入浴を拒否する方へは声かけや対応のしかたを工夫し、入浴を促すようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントを行い、利用者の生活歴や希望、力量等を把握している。散歩や塗り絵、書道、ちぎり絵など、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促すように働きかけている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、できるだけ日常的に外に出る機会を作っている。また、隣接する市町村へ出掛ける等、利用者の希望を取り入れている。移動距離や体調に配慮し、利用者の状態に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や管理者、職員は身体拘束の内容やその弊害について概ね理解しており、身体拘束は行わないという姿勢で支援しているが、やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族の同意を得て、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、家族の同意を得た上で、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠していない。また、利用者が出入りする場所に施錠していない。職員は外出傾向を察知できるよう見守りを行い、外出時には付き添っているが、やむを得ず施錠等を行う場合の家族等への説明や同意を得る体制が整っていないほか、無断外出時に備えて、近隣から協力が得られるよう働きかけるまでには至っていない。	○	やむを得ず施錠等を行う場合の家族等への説明や同意を得る体制を整えることに期待したい。また、無断外出時に備えて、近隣から協力が得られるよう働きかけることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	具体的な避難誘導策を作成しており、適切な避難誘導が行えるよう、年2回、昼夜を想定した訓練を、職員と利用者が一緒に行っている。災害発生時に備え、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげる物品等を用意しているが、住民や警察署、消防署等からの理解・協力が得られるよう働きかけるまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、住民や警察署、消防署等からの理解・協力が得られるよう働きかけることに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに配慮されており、1日の摂取カロリーや水分摂取量を概ね把握している。また、食事・水分の摂取量は必要に応じて記録をしている。しかし、献立や栄養摂取状況について、栄養士等専門家から指導や助言を得られる体制が整っていない。	○	献立や栄養摂取状況について、栄養士等専門家から指導や助言を得ることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所との連携を図り、感染症に関する最新の情報を収集している。また、感染症予防・早期発見・対応マニュアルを作成しているが、必要に応じて見直しを行うまでには至っていない。また、マニュアルに基づいた学習の機会を設けていないほか、感染症に関する情報を利用者や家族等に周知する取り組みを行っていない。	○	必要に応じてマニュアルの見直しを行うことに期待したい。また、職員に対し、マニュアルに基づいた学習の機会は設けるほか、感染症に関する情報を利用者や家族等に周知する取り組みを行うことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品等は家庭的な雰囲気のものを用意しているほか、職員がたてる物音、テレビや音楽等の音量、日射し等は適切に保たれている。ホーム内においても、季節を感じることができる工夫を行っている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう、家族に積極的に働きかけている。また、職員と利用者が一緒に一人ひとりに合った居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。